

## 徳島県におけるフタコブザトウムシの記録

辻 雄介<sup>1</sup>

[Yusuke Tsuji<sup>1</sup>: Record of *Paraumbogrella pumilio* (Karsch, 1881) (Opiliones: Sclerosomatidae) in Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan.]

**Abstract** : *Paraumbogrella pumilio* (Karsch, 1881) was collected in Tokushima Prefecture, Japan. This is the first voucher specimen-based record of this species from Tokushima Prefecture and Shikoku region.

キーワード：河川敷，ザトウムシ目，四国地方，分布，初記録

フタコブザトウムシ *Paraumbogrella pumilio* (Karsch, 1881) はクモ綱 Arachnid ザトウムシ目 Opiliones カワザトウムシ科 Sclerosomatidae の一種である。本種は体長 3mm 程の土壌性ザトウムシで，森林性種が多いザトウムシ類では珍しく，やや明るい疎林や河川中流～下流の河川敷に出現する（鶴崎・深谷，2014）。鶴崎・鈴木（2015）では本種の分布域が北海道・本州・四国と表記されているが，鶴崎（2015）の分布図では四国にはプロットがなく，四国地方における公式な記録も見当たらない。

筆者は徳島県で本種を採集しており，前述のように四国地方における公式な記録は見当たらないため，分布の知見として以下に報告する。なお，標本は徳島県立博物館（Tokushima Prefectural Museum: TKPM）に収蔵されている。

### 【標本データ】

1 ♀（TKPM-AR 3185；図 1-2），徳島県阿南市那賀川町西原，10.viii.2023，辻雄介採集。

### 【同定】

フタコブザトウムシの形態的特徴として，腹部背甲 1～2 本に目立たない低いコブ状の突起を各 1 個もつことが挙げられる（鶴崎・鈴木，2015）。徳島県で採集された個体にも腹部背甲に 1～2 本の低いコブ状突起が認められるため（図 2），本種と同定した。

### 【備考】

阿南市を流れる那賀川の河川敷で，草地の地表部から石起こしにより採集された。同時に複数の幼体も確認されたため，当地が生息地となっているものと思われる。

未発表であるが，高知県でも本種が採集されており（糸川氏，私信），四国内では生息に適した環境であれば各地に分布している可能性がある。今後も四国内における分布調査を進めていき，本種の分布解明に寄与していきたい。

### 謝辞

高知県における採集例をご教示いただいた糸川義雅氏，標本写真を撮影いただいた徳島県立博物館の鈴木佑弥氏に厚くお礼を申し上げます。

### 引用文献

- 鶴崎展巨. 2015. ザトウムシの生息環境. 宮下直（編），クモの科学最前線—進化から環境まで—，p.176–196. 北隆館，東京。
- 鶴崎展巨・深谷信一. 2014. 東京都多摩川・荒川・江戸川の河川敷のヒトハリザトウムシとフタコブザトウムシ. KISHIDAIA, 103 : 37–41.
- 鶴崎展巨・鈴木正将. 2015. ザトウムシ目. 青木淳一（編），日本産土壌動物 第二版—分類のための図解検索，p. 121–145. 東海大学出版会. 神奈川。

2023 年 11 月 7 日受付，12 月 13 日受理。

<sup>1</sup> 株式会社相愛 自然環境調査課 〒 780-0002 高知県高知市重倉 266-2. Soai Co., Ltd., Shigekura 266-2, Kochi City, 780-0002, Japan.

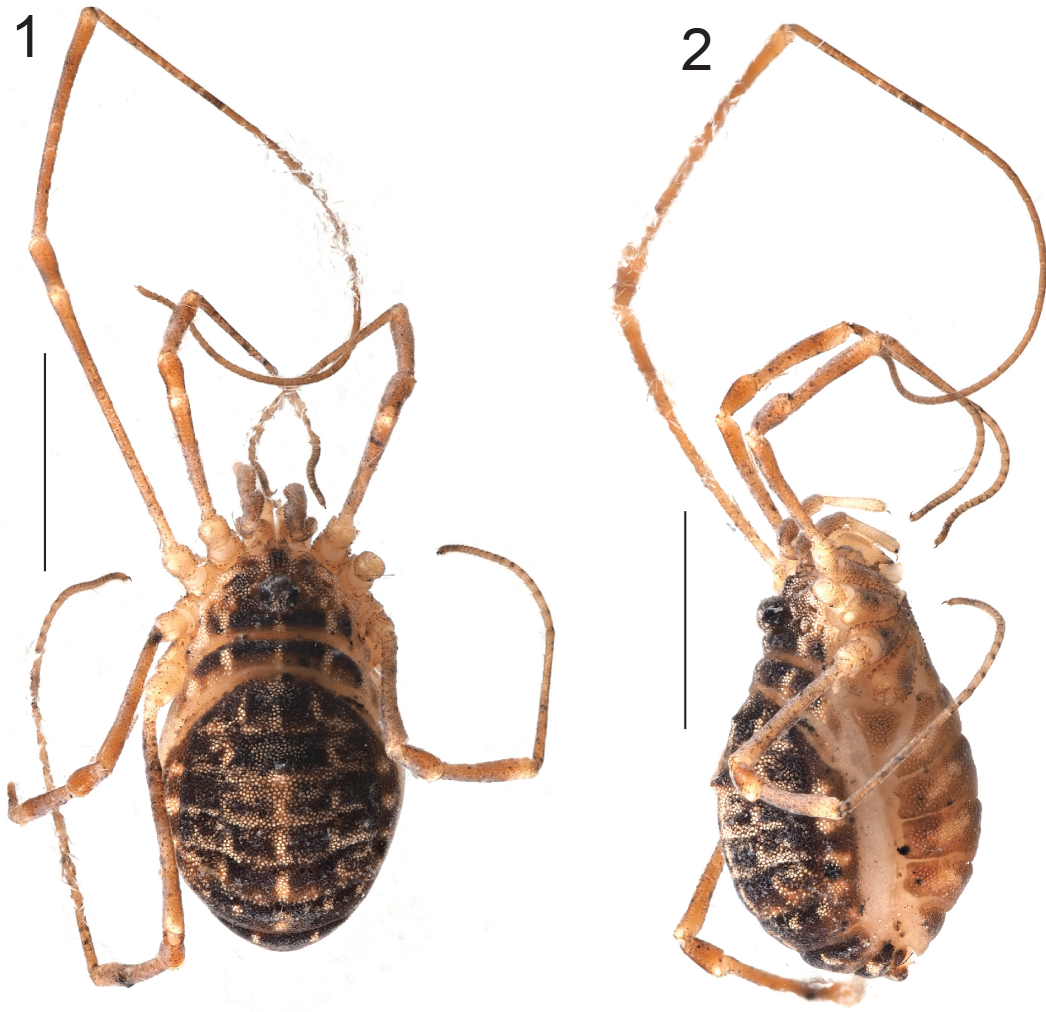


図 1-2. 徳島県で採集されたフタコブザトウムシ *Paraumbogrella pumilio* ♀. 1, 背面図; 2, 側面図. スケールバー: 2.0 mm.